

管理番号 52

研究内容の説明文

| | |
|----------------------------|--|
| 献血者説明用課題名 (括弧内は公募申請課題名) | ヒト免疫担当細胞に及ぼす天然物由来化合物の影響の検討 (薬剤によるヒト免疫担当細胞に対する影響の検討) |
| 研究開発期間 (西暦) | 2025年4月～2026年3月 |
| 研究機関名 | 慶應義塾大学 薬学部 |
| 研究責任者職氏名 | 松下 麻衣子 |

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等^{※2}

現在までに天然物から抽出された化合物の一部がリンパ球や樹状細胞を含むヒトの免疫担当細胞の機能を変化させること(免疫修飾作用)が知られています。そこで、本研究では、独自に開発した天然物由来化合物が免疫担当細胞にどのような影響を及ぼすか検討し、最終的に難治がんに対する免疫反応を増強し得る化合物の同定を目指します。本研究により強力な免疫修飾作用を持つ化合物が見出された場合、難治がんの新規治療法の開発につながる可能性があります。

2 使用する献血血液の種類・情報の項目

献血血液の種類：**検査残余血液 (全血)**

献血血液の情報：なし(ただし、個人を特定できる情報は切り離す)

3 共同研究機関及び研究責任者氏名

《献血血液を使用する共同研究機関》

なし

《献血血液を使用しない共同研究機関》

なし

4 献血血液の利用を開始する予定日

2025年6月1日

5 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》^{※2}

- ① 末梢血から単核球(リンパ球、ナチュラルキラー細胞、単球、や樹状細胞など)を分離し、更に免疫担当細胞であるリンパ球 T 細胞、単球、樹状細胞を分離します。
- ② 分離した細胞に、新規化合物または新規化合物で処理したがん細胞を加え、培養します。
- ③ 培養した細胞における細胞生存率、細胞表面抗原量、細胞増殖能、サイトカインなど免疫関連分子の発現量を測定し、新規化合物の免疫担当細胞に対する影響を検討します。

6 献血血液の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

7 上記 6 を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

※2：文章は、献血者にわかりやすい表現で作成してください。

受付番号

R070026

本研究に関する問い合わせ先

| | |
|------|-------------------------------|
| 所属 | 慶應義塾大 学薬学部・病態生理学講座 |
| 担当者 | 松下 麻衣子 |
| 電話 | 03-5400-2646 FAX:03-5400-2646 |
| Mail | maikom@keio.jp |